

令和8年産米実践管理 ～「初期生育促進」→「適期中干し」→「穂肥施用で登熟向上」～ <b>ワキ対策と適期中干しで健全なイネづくり！</b>	巻農業普及指導センター
---	-------------

### 中干し・溝切り管理の重点ポイント

- 田植え2～3週間後にワキの発生が見られたら一時落水し、ワキの抑制を図る。
- 過剰生育の防止に向け、中干しは開始時期が重要。  
生育状況を確認し、田植え後30日頃に遅れずに開始する。
- 中干しは田面に小ヒビが入るくらいまでで終了する。
- 出穂の1か月前には中干しを終了し、浅水の間断灌水から徐々に飽水管理へ移行する。

#### 1 ワキ対策による初期生育の促進

- ・田植え2～3週間後には場へ足を踏み入れ、ワキ（田面からの気泡発生）が確認される場合、2～3日間落水して土壌へ酸素供給を行う。
- ・その後、再度浅水管理として、適期中干しを開始する。

近年ひこばえが大きく生育し、ワキの多発生が懸念される。  
ワキの多発は初期生育を停滞させ収量低下につながるため、ワキの発生状況を必ず確認する。

#### 2 中干し開始時期

- ・この時期の茎数は1日で1株当たり1本増加する。田植え後25日頃に茎数を確認し、開始予定日を予測して、開始目安の茎数になったら遅れずに中干しを開始する(表1参照)。
- ・6月中旬に用水が止まり供給されなくなる地域では、田植え後30日で一旦中干しを開始する。その後、用水が止まる前に一度かん水し、そのまま自然落水して再度中干しに入る。

○ **中干し開始適期**



✗ **適期を過ぎている**



表1 品種ごとの中干し開始適期

品 種	移植期	中干し開始適期		
		めやす	1株あたり茎数	m <sup>2</sup> あたり茎数
コシヒカリ	5月3～6日	6月2～5日	(50株植) ⇒ <u>16本</u>	250本
	5月10日	6月9日	(60株植) ⇒ 14本	
こしいぶき	5月3～6日	6月2～5日	(60株植) ⇒ <u>15本</u>	280本
新之助	5月11～15日	6月5～9日*	(50株植) ⇒ <u>18本</u>	280本

\*新之助は田植え後25日頃が中干し開始の目安

※中干し開始が遅れると、過剰生育・過剰籾数・倒伏を助長し、収量・品質の低下につながる。

### 3 中干し・溝切りのポイント

#### (1) 溝切りのポイント

- ・溝切りをすると、フェーン時の迅速なかん水や、秋の長雨による停滞水の排水が容易になることから必ず実施する。
- ・溝切りは、8～10条ごと、深さは10cm以上でしっかり切り、末端を水尻に接続する。

#### (2) 中干し終了のめやす

- ・中干し程度は、田面に小さなヒビが入り、軽く足跡がつく状態までとする。
- ・中干し期間が長くなり強く干しすぎると、根を傷め倒伏や品質低下につながるため、適期に終了して飽水管理を徹底する。



中干し終了時のほ場めやす



干し過ぎたほ場

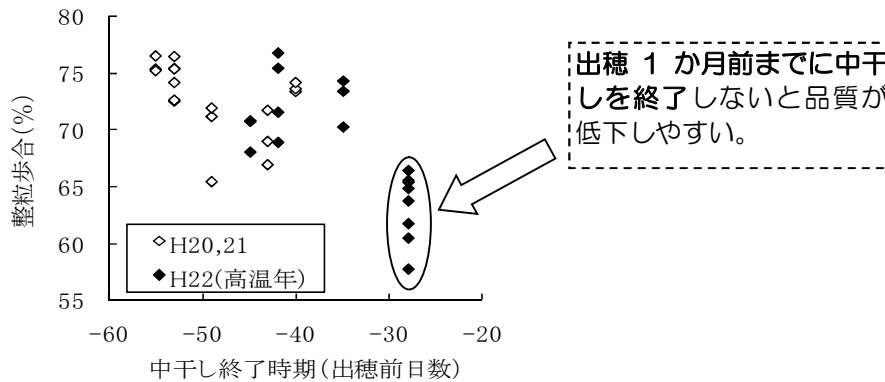


図1 中干し終了時期と整粒歩合 (H20～22、新潟県作物研究センター)

#### (3) 中干し後の水管理

- ・中干し終了後は、浅水の間断灌水から徐々に飽水管理へ移行する。中干し後は長期湛水を避け、飽水管理により、うわ根の発根促進や根の健全化及び地耐力の維持を図る。

### 4 その他の管理

#### (1) 補植苗の処分

- ・いもち病の発生源になるため、速やかに処分する。

#### (2) ケイ酸追肥 (6月末～7月上旬) で品質向上

- ・ケイ酸追肥は、高温時に「根の活力維持」「登熟向上」等の効果があり、登熟期の高温による品質低下を軽減する効果がある (図2参照)。

#### (3) カメムシ類による斑点米防止対策

- ・ほ場周辺の雑草はカメムシの生息地となるため、定期的に草刈りを行う。特に、6月中～下旬と7月中旬には、地域一斉での草刈りを実施すると効果が高い。

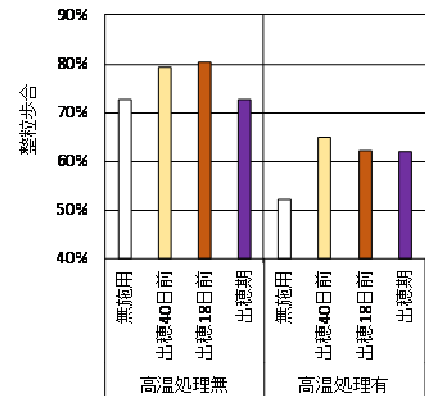


図2 ケイ酸追肥時期別の整粒歩合 (H28、新潟県農業総合研究所)